

【目次】

1. 企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」が閉会へ、6月29日！
2. 日本労働会館 2018年度評議員会を開催、6月5日！
3. 総同盟の会で、「片山哲」展の報告を行う、6月7日！
4. 連載「日本労働会館物語」第75回—戦前期、労働者の利益を守った男・松岡駒吉— その3—

1. 企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」が閉会へ、6月29日！



友愛労働歴史館が開催中の企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」(2018.1.5~6.29)は、6月29日(金)に閉会いたします。

戦後の新憲法下で行われた最初の総選挙で誕生したのが片山連立内閣であり、それを率いたのが日本社会党の片山哲(1887.07.28~1978.05.30)でした。企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」は、片山哲の歿後40年、片山内閣の崩壊70年を記念したもので、片山哲と片山内閣が戦後日本の民主化に果たした役割に光を当てたものです。

「片山哲」展閉会の後、7月6日(金)からは企画展「松岡駒吉—ひとすじに労働者の利益を守った男—」(2018.7.6~12.21)を開催します。クリスチャンにして労働運動家の松岡駒吉は、総同盟会長・全織同盟会長・衆議院議長などを務めた「日本労働運動育ての親」。2018年は松岡駒吉(1888.04.08~1958.08.14)の生誕130年・没後60年、そして松岡が主導した野田醤油争議から90年に当たることから、これを記念した「松岡駒吉」展の開催です。なお、友愛労働歴史館は「松岡駒吉」展の準備のため6月30日(土)から7月5日(木)まで休館いたします。

2. 日本労働会館 2018年度評議員会を開催、6月5日！

一般財団法人日本労働会館(友愛労働歴史館と労使関係研究協会の運営母体。小出幸男理事長)は6月5日(火)昼、当館研修室において2018(平成30)年度評議員会を開催しました。

評議員会の冒頭、病欠中の小出幸男理事長に代わり、徳田孝蔵理事(友愛労働歴史館館長)が開会挨拶を行い、続いて議長・議事録署名人を選任。その後、大野弘二議長の進行で報告・協議事項に入り、2017年度事業報告として①友愛労働歴史館事業(担当:間宮悠紀雄事務局長)、②労使関係研究協会事業(担当:滑川太一事務局長)、③三田会館宿泊事業(担当:兼次朝信総務部長)、の各事業報告を確認しました。



続いて協議事項に入り、第1号議案「2017年度決算報告承認の件」、第2号議案「2018年度の常勤役員に対する報酬(案)承認の件」、第3号議案「労使関係研究協会規定の一部変更(案)承認の件」、第4号議案「理事の退任及び選任(案)承認の件」が提案され、何れも承認されました。

詳細は省きますが、野崎満夫理事(JAM)が退任し、新たに宮本礼一理事(JAM前会長)が選任されました。また、評議員会の承認事項ではありませんが、日本労働会館の主要な2018年度

事業計画（友愛労働歴史館事業計画、労使関係研究協会事業計画、三田会館宿泊事業）について、各担当者より説明が行われ、了解されました。

3. 総同盟の会で「片山哲」展の報告、6月7日！

旧総同盟（友愛会の流れを汲み、1946年に組織された中央労働団体。その後、同盟・連合へと発展）の関係者で組織する「総同盟の会」は6月7日（木）11：00、友愛労働歴史館研修室で第18回総同盟の会「2018年夏の集い」を開催しました。

友愛労働歴史館から間宮事務局長が出席し、開催中の「片山哲」展を踏まえた報告「総同盟・社会党の戦後の歩み—片山哲を中心に」を行いました。講演後、参加者は企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」（2018.1.5～6.29）を見学、その後、交流会を楽しみました。

4. 連載「日本労働会館物語」第75回—戦前期、労働者の利益を守った男・松岡駒吉 その3—



今回の「日本労働会館物語」は松岡駒吉の3回目。「戦前のきわめて困難な時代にただ一筋に現実の労働者の利益を守るために、地道な努力を続けてきた人物」（『松岡駒吉伝』）と評された松岡駒吉（1888.4.8～1958.8.14）は、「産業人論」と「健全なる労働組合主義」の提唱者でもありました。

松岡駒吉の「産業人論」は、「労働者は産業人」であり、「労働組合は労働者を産業人に育てる学校」であるというものでした。松岡が「産業人論」を提唱した背景には、大正10年頃から高まってきた日本共産党の労働組合への支配・介入がありました。共産主義者が「労働組合は革命のための学校」と嘯いたのに対し、労働組合主義者・松岡駒吉は「労働組合は労働者を産業人に育てる学校」と主張して対抗したのでしょう。

一方、松岡駒吉や総同盟の「健全なる労働組合主義」は、①企業内に閉じ込めり、自らの労働諸条件のみに汲々とする企業内組合主義と、②外部の政党・政治勢力の支配・介入を受け、政治闘争を至上とする革命的組合主義を、ともに“不健全”と批判したものです。

松岡は企業内に閉じ込めり、産別にも中央組織にも加盟せず、幅広い労働者の団結と連帯を否定し、自らの労働条件の維持向上に固執する企業内組合を、「企業縦割御用組合」と批判しました。今日、日本の労働組合の多くは企業別に組織され、企業別組合と呼ばれています。しかし、産別にも中央団体にも加盟しない組合は、一般に企業内組合と批判的に呼ばれています。

また、労働組合主義者・松岡駒吉は、労働者階級の前衛と自称する共産党・共産主義者の支配・介入を拒絶し、労働組合の自主性・自立性を貫きました。総同盟が共産系労組（評議会）を除名した大正14年の総同盟第一次分裂は、関東同盟会会長・松岡駒吉が主導したものです。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

惟一館から124年、友愛会から106年
